



1 桜の枝を剪定する山下忠之さん 2 池の周りで草刈り作業 3 1時間ほど作業して休憩時間。東屋の中は参加者同士の社交の場だ 4 刈った後の草や枝をトラックへ。ここまでやって作業はようやく終了となる



雨の中、黙々と作業を続ける参加者。対象は地区の全世帯だ。自分が暮らす地域の大切な場所だから、自分たちの手で美しく保ちたい。どの参加者からも、そんな気持ちを感じ取れた。

【第2章】

地域を育成する

ときどんの池を核として、地域が育つ、人の心も育つ
地区全世帯対象の美化活動・ホテル鑑賞会に密着した



愛着がある場所だから、自分たちの手できれいにしたい
西原弘さん 堀井真恵さん

わたしたちはときどんの池グラウンドゴルフ場で、毎日のようにプレイしています。ここに来ない日は身体が何となくおかしく感じるほど、ここが好きなんです。自分たちが集い楽しむ場所だから、自分たちの手できれいにしたい。ずっと大切に使用したいし、みんな愛着があります。ここに集まることが、外出するきっかけにもなっています。実際に家に閉じこもりがちだった人が、ここに来るようになって元気が出た人もいます。徳山は元気な人が多いですよ。



雨の中で始められた環境美化活動5・23日

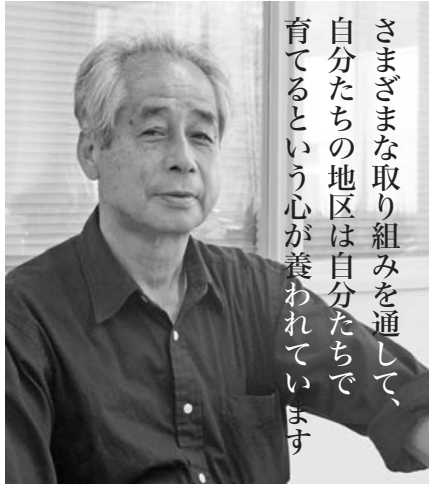
5月23日土曜日、朝8時。30分前から降り出した雨は、一向にやむ気配がない。しかしこの雨の中、自然観察公園とときどんの池の周りには地区の人たちが大勢集まり、草刈りや桜の枝払いなどの作業が既に始められていた。ときどんの池環境美化ボランティア活動だ。

「毎回、多くの区民に参加してもらっています。区の皆さんは、呼びかければ積極的に動いてくれますから、本当に助かります。ありがたいことです」と話すのは徳山区長の澤口浩忠さん。参加者が休憩時に飲むお茶や弁当を手配し、ここまで配達していた。

この日の参加者は、区役員4人を含む約30人。ある人は草刈り機で公園周囲や線路脇の草刈り。ある人は、池のほとりのキシヨウブ周辺の草取り。ある人は桜並木の余分な枝の剪定。時おり激しくなる雨の中、カッパを着た参加者たちは、無駄口をたたくこと

もなく、黙々と作業を続けていた。訪れた人が快適な時間を過ごしてほしい。参加者の一人川本孝さんが「おい、この水車は一度点検する必要があるそうだなあ」と呼びかけた。「一度別の機会に水を止めて、点検してみようか」と、鈴木俊三さんが答えていた。

さまざまな取り組みを通して、自分たちの地区は自分たちで育てるといふ心が養われています



徳山区長 澤口浩忠さん

徳山区では、このときどんの池の美化活動を全世帯を対象として実施しています。毎月2つの組（人数が多い組は1組）が参加して、毎月第3土曜日の朝に実施しています。多いときは50人以上が作業に参加してくれます。声をかければ参加してくれる、非常にまとまりがある地区で、本当にありがたいことです。

この公園の整備や美化活動を通して、自分たちの地域は自分たちがつくる、守っていくという精神が養われているのではないのでしょうか。

徳山区には昔から受け継がれてきた伝統芸能や、桜を生かした取り組みなど、多岐にわたって地域づくりを推進しています。少子高齢・過疎化の時代ですが、みんなが団結して地区に愛着を持ち、にぎわいのある徳山区を目指しています。